

安全保障理事会議長声明

「西アフリカにおける平和の強化」と名付けられた議題に関する安保理の審議に関連して、2009年10月28日に開催された、安全保障理事会第6207回会合において、安全保障理事会議長は、安保理を代表して以下の声明を発した。

安全保障理事会は、9月28日、コナクリにおいて集会に出席していた文民に対し、軍隊が発砲した殺害事件に続く地域の平和と安全に対するリスクとなりうるギニアの状況に対して、深く懸念し続ける。安保理は、150人以上の死亡、何百人の負傷、それ以外にも多数のレイプ、女性に対する性的犯罪を含む甚だしい人権の侵害を引き起こした暴力および平和的デモ参加者および野党リーダーの恣意的な逮捕を強く非難する。

安全保障理事会は、国家当局が、刑事責任の免除と戦い、犯罪者を裁き、基本的な人権の尊重と法の下での正統な法手続きが否定されている全ての個人の釈放を含んだ法の支配の維持が必要であることをくり返し表明する。

安全保障理事会は、国際コンタクト・グループ、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）およびアフリカ連合の公式声明、とりわけ2009年10月15日のアフリカ連合平和・安全保障理事会会合のコミュニケおよび2009年10月17日に開催されたECOWASサミットのコミュニケを歓迎する。安保理は、ブルキナ・ファソのブレイズ・コンパオレ大統領が引き受けたギニアにおけるより良い結果を導く安定した環境の創出への努力を含んだ仲介活動を歓迎し、彼の行動を支持するよう国際社会に要請する。

安全保障理事会は、実際に起きた事実を確かめ、暴力責任者訴追を保障するために犯罪者を明らかにすることを目的とした9月28日事件の捜査および事務総長への勧告を行う国際調査委員会設立を決定した事務総長の決定を支持するECOWASサミットの声明を歓迎する。安全保障理事会は、ギニア当局が安全な状況下での国際調査委員会の仕事の支援を正式に約束したことを留意する。

安全保障理事会はさらに、信頼できる、自由で公平な選挙を保障する新しい暫定当局の設立、民主主義と発展のための国民評議会（CNDD）、首相および新暫定当局で高職者が、来る大統領選挙の立候補者とはならないことを保障し、移行予定表の指標を立てることの重要性を強調したECOWASサミットの声明を歓迎する。安全保障理事会は、予定通り2010年に選挙が実行されることを要請する。

この文脈において、安全保障理事会はさらに、調停過程および紛争解決および平和構築に関連した意思決定過程において、女性代表を増やすための措置を取るよう、事務総長、加盟国および地域機構の代表に対して促した決議1888(2009)を想起する。

安全保障理事会は、CNDD議長および他の個人を対象とした制裁を科すことに関連したアフリカ連合平和・安全保障理事会の9月17日および10月15日の決定を留意する。さらに安保理は、ギニアに対して武器禁輸措置を取るとしたECOWASの決定を留意する。さらにアフリカ連合平和・安全保障理事会が元首級で10月29日に会合をもつことを留意する。

安全保障理事会は、かかる状況を注視する意志があることを表す。安保理は、事務総長に対し、実際の状況、準地域にとっての潜在的意味、2009年9月28日の殺害に関する国際的調査およびECOWASとアフリカ連合によってとられた措置に関する最新情報を適宜供給するよう要請する。